議案第２５号

１　議　案　名　　平成３０年度（平成２９年度対象）徳島県教育委員会の点検・評価について

２　提案理由　　徳島県教育委員会が自らの教育行政の管理・執行状況について点検・評価し，その結果に関する報告書を議会に提出し，公表する必要があるため。

３　関係法令　　地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２６条

教育政策課

資料１

平成３０年度徳島県教育行政点検・評価委員会　議事概要

（開催要領）

１　開催日時　平成３０年８月１０日（金）午前１０時から午前１１時３０分まで

２　場　　所　県庁９階　教育委員室

３　出 席 者

【委員】５名全員出席

奥村英樹会長，祖川康子委員，中川朋子委員

原　憲史委員，三隅友子委員

【県】　美馬教育長，勢井副教育長，青山教育次長，竹内教育次長　他

（会議次第）

１　開　会

２　教育長あいさつ

３　委員及び事務局職員紹介

４　議　事

（１）教育委員会の点検・評価（案）の説明

（２）質疑及び意見交換

５ 閉　会

（配付資料）

１　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価の実施方針について

２　取組目標の達成状況（平成２９年度対象）

３　教育委員会の点検・評価（案）

（委員からの御質問や御意見）

【基本方針１　新たな価値を創り出し，未来へ飛躍する人を育てる教育の実現】

○６次産業化教育

・一つの製品でも，多くの地域や産地が関連していることを生徒が学ぶことは良いことである。もうかるブランド課とも連携しながら，ＨＡＣＣＰやハラール認証などの視点を取り入れることで，もっと学びの幅が広がるのでないか。

○グローバル化教育

・実際に海外に行くのは経済的な理由や政情不安等で難しい面もある。国際見本市など訪日外国人観光客と触れ合うなど活動的な取組についても，数に含むようにしてはどうか。

・海外向けに動画を作成し，発信することでコミュニケーションを図ることもできる。それによってグローバルマインドを育成することにもつながるのではないか。

・実際に海外に行く前段階として，広く社会を見る態度やいろいろな物の考え方や見方があることを伝えることも重要である。
・ニーダーザクセン州とのつながりについて，今後の方向性はどうなるのか。
・コミュニケーションツールを活用しながら，交流の場を増やしていくとともに，一人一人が世界とつながっているような状況を作り出していくことが必要。対面ではない対話の技法を身に付けることも大切である。

○ＩＣＴの活用

・ＡＩ時代に対応するための人材育成において，ＩＣＴをどのように活用していくのか。
・教員の多忙化が問題となっているが，ＩＣＴを活用した業務の簡略化などにはどのように取り組んでいくのか。

○スポーツ振興と競技力向上

・幼少期から自由に遊べる環境が少なくなっている。多くの家庭が学童保育を利用しており，親子の触れ合う時間も限られている。体を動かす機会をつくるためにも，地域のスポーツクラブ等，民間の力をうまく活用してはどうか。
・子供の数が減ってきているなかで，実数を成果指標にするのは難しい面があるのではないか。

【基本方針４　夢と希望に向かって学び続ける教育の実現】

○文化遺産を活用した学びの場づくり

・板東俘虜収容所の歴史を，多文化共生のために，どのように活用していくのか。

【基本方針５　安全・安心で魅力あふれる教育の実現】

○安全・安心なとくしまの学校づくり

・ＳＮＳによるいじめや不審者による被害，また，家庭での虐待や熱中症の問題など，子供たちを取り巻く環境は厳しさを増している。予測困難な社会に子供たちを送り出すことに不安を感じる保護者も多い。安全安心な環境づくりにどのように取り組んでいくのか。

○社会の変化に対応した魅力ある学校づくり

・デュアルスクールについては，都市部の児童生徒が徳島で学ぶことの意義をメッセージとしてもっと発信するべきである。
・生産者の気持ちやものづくりの過程が理解できるような消費者の育成が大切ではないか。
・エシカル消費とも関連するが，ＳＤＧｓ，いわゆる持続可能な社会について取り組んでいく必要がある。

【その他全般的な御意見】

・学校の統廃合が進んでいるが，廃校舎をどのように有効活用していくのか。
・多くの事業を行っているが，保護者などに十分伝わっていない部分がある。
・ホームページやＳＮＳ等による広報も効果的であるが，多様な人がいるので，それを踏まえた広報をしてほしい。
・努力していても相対評価であれば必ずしも結果として出ない場合もある。質的変容など絶対評価を取り入れてはどうか。